

陳情第 6 号

吸玉の瘀血に関する陳情

令和4年11月9日

長崎市議会議長

深堀義昭様

陳情人

・長崎市油木町34-5

・濱口哲二



# 吸玉の瘀血に関する陳情

## 1 陳情の趣旨

私は、吸玉を病気の治療法として44年間研究してきました。

そして、吸玉の病気に対する治療効果は常識をひっくり返すほどのものと認めました。

もし、公の後押しがあると、生活習慣病で苦しむ方も、介護を必要とする方も相当数減らすことができるとおもいます。

そうすれば、国民の税負担が減り、民間の活力が上がり、深刻になり始めてきた日本の経済力も復活すると考えます。

## 2 陳情項目

❖吸玉の瘀血を公の機関で科学的に分析してもらいたい。・・・これは世界中まだどこもやっていないようです。

❖そして、その結果を、公にしてもらいたい。

❖吸玉の研究を続けて、後継者の育成をするために、財政的な援助をしていただきたい。

❖国に働きかけて、吸玉の学校を作る援助をしていただきたい。

私は、吸玉を研究するにあたり、健康保険並みの料金で吸玉の施術を44年間やってきました。食べるのがやっとで、このままでは後継者育成が出来ません。

病気で長く苦しむ方は経済的にも苦しく、また、健康を維持するために吸玉を定期的に続けるには施術料金は高額に出来ません。ぜひ公の後押しが必要です。

吸玉は、世界中に大昔から今でもあります。しかし、吸玉に対する偏見は強く、見かけだけで馬鹿にして、科学的な検証を公には世界中でまだ誰もやってはいないようです。

もし、これを公にやって世界中に公表出来たら、ノーベル賞ものだと思います。・・・

・・・たとえば、サルが将棋の藤井聡太五冠に勝ったら、皆びっくり仰天するでしょう。

見かけだけなら、古臭いかわいものに見えるかもしれませんが、吸玉の瘀血を科学的に分析してそれを正しく評価すれば、皆が今持っている常識も固定観念もひっくり返し、サルが藤井五冠を負かす程の仰天、コロンブスの新大陸発見以上の衝撃があると思います。

私は、吸玉を病気の治療法として44年間研究してきて、吸玉がノーベル賞級の価値があると益々確信をしてきました。しかし、それを世に問う術も手立ても私は持ちません。先進の思想を発信し続けてきた伝統ある長崎の議会の議員の皆様、是非助けていただきたいです。

※参考資料・・・私の吸玉のホームページです。是非お読みください。

病原菌に固執する現代人に、瘀血を分かってもらうために、ホームページも30年がかりで噛み砕いて作りました。これを読んでも瘀血が分からない現代人には、私はもうお手上げです。